



松明

(令和3年1月発行・隔月発行) 2021 vol. 1



P3 防災訓練についてより

「令和3年 年頭のごあいさつ」

独立行政法人国立病院機構福島病院 病院長 杉浦嘉泰



新年明けましておめでとうございます。昨年は新型コロナウイルス感染症により、人類の生活が一変し、今年も静かなお正月となりました。それまで当たり前に行ってきた、友人との歓談や会食、旅行、コンサートや観劇、映画鑑賞などが制限され、マスクの着用や手洗いの励行など、新しい生活様式を日常とする世界になりました。このような社会の変化に伴い、医療機関もそれぞれの病院機能に応じて、様々な新型コロナウイルス感染症対策に取り組んでいるところであります。

当院は福島県におけるセーフティーネット医療の中核施設として、重症心身障害児（者）病棟と神経難病病棟を運用しております。そこには脳性麻痺、筋ジストロフィーや筋萎縮性側索硬化症（ALS）などの神経筋疾患による呼吸筋麻痺のため、人工呼吸器を装着している患者さんや、高齢で呼吸器系など様々な基礎疾患を持つ神経難病の患者さんが多数入院されております。こうした患者さんは新型コロナウイルスに対して脆弱であり、一旦院内で感染が広がれば生命の危機に曝されることが容易に想像されます。このため新型コロナウイルスを病棟

へ持ち込まないことが、入院患者さんの生命を守る為に当院が行い得る最大限の感染対策と考えております。そこで、全職員とその家族は緊張感を持って感染対策に留意した生活を送り検温などの体調管理に万全を期すとともに、病院内への人の出入りを制限しております。外来診療では玄関で患者さんやご家族の検温と問診を行っており、入院では患者さんにご家族の直接の面会を制限し、iPadを用いたりリモート面会に変更しております。こうした感染対策により、患者さんやご家族、地域の医療機関の皆様には、コロナ禍以前では考えられなかった様々なご負担をおかけしております。しばらくはこのような診療体制が続くこととなりますが、当院の病院機能をご理解いただき、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

本年も地域の医療機関と連携し、重症心身障害医療と神経難病医療の更なる充実を図り、福島県のセーフティーネット医療に貢献できるよう、職員一同努めて参ります。本年は明るい兆しが見える年になりますよう祈念し、年頭のご挨拶といたします。

本号のご案内

| | | | |
|------------------------|---|------------------------|---|
| ●「令和3年 年頭のごあいさつ」 | 1 | ●療育だより 福島病院での七五三 | 4 |
| ●丑年を迎えて 年男・年女より「今年の抱負」 | 2 | クリスマス会 | 4 |
| ●第1病棟の引っ越しについて | 3 | ●看護学校だより コロナ禍でも、豊かな学びを | 5 |
| ●防災訓練について | 3 | ●健康プラザ この季節の感染管理について | 5 |
| | | ●外来担当医表 | 6 |

納得の医療で地域や社会に貢献

病院理念

福島病院では「納得の医療」で地域や社会に貢献を理念として掲げ、職員一同、●人間として対等な患者さんの目線に立ち、●分かり易い説明を行い、同意を得た上で、●安全・安心で質の高い、患者さんやご家族を始め、地域社会の方々、勿論病院職員など誰にでも納得していただける医療の提供を常に心掛けております。

丑年を迎えて 年男・年女より「今年の抱負」



**事務部
経営企画室長
高山卓士**
(はたけやま たくじ)

●新年明けましておめでとうございます。4回目の年男を迎えるにあたりごあいさつ申し上げます。

前回の年男からこれまでを振り返るととても多くの出会いがあり、皆様に支えていただいたことをあらためて実感しています。これから、仕事を通じて少しでも皆様にお返ししてきたいと思っています。そのためには、心身の健康維持が必要ですが、昨年、体調を崩す機会が多く、年齢を重ねる中で健康に対する意識を高める必要があることをあらためて感じ、健康管理の甘さを反省しているところです。

今年は、健やかな身体を保つ努力を積極的に行うべく、バランスの良い食事を摂ること、身体を鍛えることが習慣となるよう、目標を立てて取り組みたいと思います。

今年の干支は丑ですが、本県会津地方に伝わる疫病退散のご利益がある「赤べこ」にあずかり、コロナウイルス感染症の収束に向かう節目の年になるよう切に願っています。



**療育指導室
保育士
村山真優子**
(むらやま まゆこ)

●新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

福島病院に赴任して2年が経とうとしています。須賀川の生活にも少しずつですが慣れてきたように感じます。

室長をはじめ、指導室スタッフ、病棟スタッフの皆さま方などたくさんの方からご指導をいただきながら、日中活動での患者様の笑顔に癒されここまで働くことができました。

昨年は新型コロナウイルス感染症の流行で、色々と制限された1年となり、活動の提供内容など色々なことが変わった1年となりました。今後も新型コロナの感染は長期化すると思いますが、能動的に行動して様々なことを吸収し、少しでも患者様に還元できるように努力していきたいです。プライベートでは松明あかしをはじめとした祭り行事が開催されること、青森ねぶた祭りに参加できる年となるように願い、そして充実した濃い1年となるようにしていきたいです。



**第1病棟
看護師
田村慶子**
(たむら けいこ)

●私は当院に入職し、7年が経とうとしています。子育てをしながらの仕事は大変な事もありましたが、頼もしく優しい病院スタッフや患者さんからの励ましの言葉で現在まで仕事を続けることができました。当院の理念でもある「納得の医療で地域や社会に貢献」のため、今年も日々進歩する医療に遅れを取らないよう勉強に励み、地域の方々が福島病院に来てよかった、入院の苦痛が少しでも軽くなったと言ってもらえるような患者さんの心に寄り添った看護を提供していきたいです。そのためにもコロナに屈することなく自分の体調管理を万全にし、笑顔を絶やさず、呑牛之気で今年も頑張りたいと思います。



**リハビリテーション科
理学療法士
志田竜望**
(しだ りゅうせい)

●4月から新社会人として福島病院で勤務し、1年が経とうとしています。

始めは、リハビリテーション業務や事務作業もわからないことばかりでしたが、先輩方々のご指導により、少しずつ業務を行えるようになりました。

また、須賀川市での生活も1年が経とうとしています。始めは慣れないところでの生活だったため不安もありましたが、生活していくにつれて徐々に慣れていきました。昨年はコロナウイルスの影響で行事等は行えなかったため、今後は祭りなどの行事に参加できればいいと思います。

昨年は仕事を覚えることに精一杯で理学療法士としてのスキルアップがうまくいきませんでした。今年、研修や勉強会に参加し、リハビリテーションの技術を向上していきたいです。学んだ技術を患者様に提供し、役に立てたら嬉しいです。

今年もよろしくお願いいたします。

第1病棟の引っ越しについて

第1病棟 看護師長 渡邊 美紀江

昨年12月17日、中央診療棟2階の新1病棟への引越しを行いました。安全に患者さんを搬送するため、事前の準備から始まり搬送のシミュレーション・当日の応援まで、関係者の皆様にたくさんのご支援をいただき無事に終了することができました。引越しから約1か月が経過しようとしていますが、患者さん・病棟スタッフ共に徐々に新しい環境に慣れてきたのではないかと感じている今日この頃です。

新病棟は十分な陽光が差し、とても明るい雰囲気となりました。それだけでなく陽光には、体内の機能が活性化され、自然治癒力が高まる効果があるとされています。



また2階ということもあり、これまでは見ることでできなかった様々な景色が眺められるようになりました。太陽の光を浴び、窓からの景色を眺めることで季節の変化や自然の様子を感じながら、日々の療養生活を送っていただけるのではないかと思います。

現在、未だ収束の兆しが見えない新型コロナウイルス感染症の影響で、面会や外出・外泊もままならない状況が続いております。しかし、患者さんご家族の皆様が少しでも安心してお過ごしいただけるよう、スタッフ一同自己研鑽に励みながらに対応させていただくことで、この状況を乗り切っていきたいと考えています。

防災訓練について

管理課長 佐藤 淳子

令和2年11月25日(水)、重症心身障害病棟の5病棟において夜間想定防災訓練を実施しました。

通常は、非常放送を聞いて各病棟等から応援者が火災発生病棟へ駆けつける、という段取りですが、今年は新型コロナウイルス感染症予防のため、他病棟スタッフは防火区画外まで駆けつけて終了し当該病棟には入らない、模擬患者の搬送も2つ目の防火区画手前までとし、病棟の外に出ないという訓練になりました。

事務当直室では、受信盤操作、院内放送、実際に消防署への通報等、実践に即した訓練を行いました。

例年と異なり、少ない人数での避難誘導に、5病棟の夜勤看護師役のスタッフは、終了後も息が上がって汗だくでした。本当にお疲れ様でした。もしも、実際に外の避難場所まで避難するとなると体力が必要、応援者は早く駆けつけてほしいとの感想もありました。

毎年訓練を行っていますが、毎回反省点ができます。今回も、前向きで積極的な意見をいただきました。いざという時に備えるため、訓練を継続することが必要です。

次回もご協力をよろしくお願いいたします。



子どもの成長を願う七五三のシーズンを迎え、11月5日に福島病院重症心身障害児（者）病棟でもお一人のお子さんが七五三を迎えられました。

例年はご家族も参加されて行われるのですが、今年はコロナウィルスの影響でご家族の参加はかないませんでした。

第6病棟プレールームには手作りの大鳥居や伊勢神宮を模した神殿をセットし、記念写真の撮影ブースを設けて、可愛いスーツ姿のT. Sさん3歳が、同じ病棟の患者様や職員の見守るなか、担当看護師の介添えのもと石井副院長が扮する神主さんによる祝詞とお祓いをうけ、これからの健やかなご成長を願って参拝しました。

参拝後は、千歳飴を片手に、神主さんや参列された方々とにぎやかに記念撮影がおこなわれました。

T. Sさんがこれからも元気にご成長されますことをご祈念いたします。おめでとうございます。



今年はコロナウイルス感染症対策のため令和2年12月21日（月）～12月24日（金）にクリスマス週間を設け、各病棟・部屋ごと少人数でクリスマス会を実施致しました。

今年の出し物は、患者さんと一緒にできる「キャンドルサービス」と「きよしこの夜のダンス」を行いました。クリスマス会の始めに皆で「あわてんぼうのサンタクロース」を歌っていると…鈴の音と共にサンタクロースが登場！！患者さんの中には、緊張して表情が固まっている人や笑顔でサンタクロースと握手している人など反応は様々でした。キャンドルサービスではサンタクロースがひとり1人のところへキャンドルの火を灯して回り、一緒に写真撮影をしました。そして、患者さんがとても楽しみにしていたクリスマスプレゼント！サンタクロースから代表でプレゼントを受け取った方は、笑顔で会が終わるまで大事そうに抱えていました。クリスマス会の最後には、サンタさんと一緒にきよしこの夜のダンスを行いました。

例年とは違った形でのクリスマス会でしたが、各病棟それぞれ患者さんの楽しむ姿やたくさんの笑顔が見られました。



2020年5月から自宅実習という形で3年次の実習がスタートし、6月からは学内実習を含めた担当領域の実習が始まり12月に無事終了しました。感染拡大防止対策のひとつとして、接触者を限定する目的で、実習科目毎に学習場所を固定し、学習も食事もほとんどその場所で行います。学内での実習は、視聴覚教材や資料など活用し、課題学習や技術演習など行っていました。課題学習は個人ワークがほとんどで、グループメンバーと対話しながらの学習は限られていましたが、課題や演習の内容によってはディスカッションする機会を設けました。フェイスシールドを装着し、互いの距離を取り、換気しながら行いました。友達と会話を通じて何かに興味を持ったり、学びの意欲が高まる様子を見て、学生が学び続けるためには「他者とのつながり」が不可欠であると実感しました。

限られた中での臨地実習ではありましたが、対象との対話から様々な思いを知る機会となり、学生の笑顔もみ

られました。「どんな仕事をするにせよ、実際に学ぶ事ができるのは現場においてのみである」これは、ナイチンゲールの言葉です。少しでも学びの機会としてできる限りの環境を整えたいと実習指導していただいた方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。



健康プラザ

この季節の感染管理について

臨床検査科 主任臨床検査技師 須藤里菜

気温と湿度が低くなり、感染症が流行する季節です。例年この時期はインフルエンザが世間を騒がせますが、昨年より日本を含む世界各国で新型コロナウイルスが猛威を振るい未だ収束する気配はありません。このような病原体から身を守るためには何が必要でしょうか？

新型コロナウイルス流行の第1波から手洗い、咳エチケット（咳やくしゃみをする時にマスクやハンカチ、袖、肘の内側などで口や鼻を押さえること）、マスクの着用が推奨されています。新型コロナウイルスもインフルエンザもウイルスを含んだ飛沫を吸い込むことで感染しますが、ウイルスがついた手で目や鼻、口などに触れることで感染する場合があります。ですから、咳エチケットとこまめな手洗いを行うことで「感染する」または「感染させる」リスクを減らすことができます。また、正しく手洗いすることも重要です。指先、指の間、親指の洗い残しが多くなりますので、その点に注意しましょう。そして、マスクは正しく着用していますか？時々口だけ

にマスクをしている人を見かけますが、隙間ができないよう鼻と口をマスクで覆いましょう。正しい手洗いとマスクの着用の仕方は厚生労働省 HP でも確認できます。

自分自身や周囲の人を感染症から守るために、感染予防対策をしっかり行いましょう。



咳エチケット



手洗い

●外来担当医表●

外来担当医は都合により変更となる場合がありますので、ご了承ください。

【令和3年1月1日より】

| 区 分 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|------------------------|--------------------------------------|----------------|-------------------|----------------|-------|
| 内 科 1 | 安田千尋 | 安田千尋 | | | 安田千尋 |
| 内 科 2 | 佐藤由紀夫 (第1・3) | | | | |
| 内 視 鏡 検 査 | | | | 安田千尋 | |
| 脳 神 経 内 科 | 伊藤英一 | 根本和夫 | 伊藤英一 | 根本和夫 | 杉浦嘉泰 |
| 小 児 科 | 福島医大 | 石井希代子 | 福島医大 | | 河原田勉 |
| 専 門 外 来 (発達小児クリニック) | | 石井勉 | | | 河原田勉 |
| 専 門 外 来 (小児神経外来) | 石井希代子 (第1・3) 平山恒憲 (第2) 再来のみ | | 石井希代子 (第2・4・5) | 加藤朝子 (第2・4) | |
| 専 門 外 来 (小児循環器外来) | | | 桃井伸緒 (第2・4) | | |
| 小 児 専 門 外 来 | 予 防 接 種 (午後) | | | | |
| 整 形 外 科 | 古川浩三郎 | | 古川浩三郎 | | 古川浩三郎 |
| 小 児 外 科 | | | | 清水裕史 | |
| 脳 神 経 外 科 | | 福島医大 (第2・4) | | | |

●完全予約制となります。予めご予約をお願いいたします。

●受付時間は午前8:30～11:00までです。急患については随時受付いたします。外来担当医は、都合により変更となる場合がありますので、ご了承下さい。

●外来担当医表は令和3年1月1日時点のものです。その後担当医が変更になっている場合もありますので、当院ホームページ、院内掲示等をご確認下さい。

●専用ダイヤルをご利用ください●

診療のお問い合わせ・ご相談 (月～金 9:00～17:00)

診療の予約・変更等 (月～金 15:00～17:00)

専用ダイヤル 0248-75-2259

●編集後記●

新年あけましておめでとうございます。今年の干支は丑。福島の牛といえば赤べこ、疫病退散の意味もあり縁起物に飾るのも良さそうです。ですが花より団子、食べる方にも意識が向いてしまいます。福島牛に、県外には米沢牛すき焼き・仙台牛タン・岩手前沢牛と牛の博物館。気軽に行けて楽しめる日が待ち遠しく思います。(編集委員 H.A)



National Hospital Organization Fukushima National Hospital

独立行政法人国立病院機構 福島病院

〒962-8507 福島県須賀川市芦田塚13番地

☎0248-75-2131 (代表)

<https://fukushima.hosp.go.jp/>